

県政記者クラブ 各位

県土整備部 道路環境課

「高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組」が 土木学会のインフラメンテナンส์チャレンジ賞を受賞しました！

公益社団法人土木学会（以下「土木学会」という。）の2022インフラメンテナンส์表彰において、県が取り組んでいる「高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組（高校生との協働による橋梁点検）」がインフラメンテナンส์チャレンジ賞を受賞しましたので、お知らせします。本表彰の受賞は、本県では初めてとなります。

また、2月16日（木）には、今年度の最後の取組となる県立久慈工業高校（建設環境科2年生）との協働による橋梁点検の報告会を実施しますので、併せてお知らせします。

1 土木学会のインフラメンテナンส์表彰について

- ・ インフラメンテナンส์に関連する優れた取組等を共有することにより、インフラメンテナンส์への関心の向上等を目的に土木学会が令和3年度から実施している表彰制度で、プロジェクト賞、チャレンジ賞、エキスパート賞等の5賞で構成されている。
- ・ チャレンジ賞は、地域のインフラメンテナンส์に寄与した取組や創意工夫によりインフラメンテナンส์への意識の向上が図られた取組等が対象とされている。
- ・ 2022インフラメンテナンส์表彰の詳細は、別添の「土木学会資料」のとおり。

2 受賞した取組の概要について ※取組の詳細は「別紙」のとおり。

- ・ 県が道路法に基づき実施する橋梁点検について、令和元年度から県内の土木系学科の高校生と協働で取り組んでいるもの。
- ・ 高校生にインフラメンテナンส์の必要性や重要性の理解を深めてもらうとともに、自ら実施した点検が県民の安全な暮らしを支えるという土木の魅力を感じてもらい、将来のインフラメンテナンส์の担い手の確保・育成を推進することを目的としている。
- ・ 本取組は、国土交通省等が社会資本のメンテナンส์に係る優れた取組等を表彰する第6回インフラメンテナンส์大賞で国土交通大臣賞を受賞した（大臣賞受賞は本県初）。

3 久慈工業高校との協働による橋梁点検の報告会について

- ・ 日 時：令和5年2月16日（木）11時～11時40分
- ・ 場 所：久慈地区合同庁舎 6階 大会議室
- ・ 報告者：久慈工業高校 建設環境科2年生（5人）

【問い合わせ先】



県土整備部 道路環境課
維持担当課長 亀田、主任主査 熊谷
TEL：019-629-5878（内線 5881）
FAX：019-629-9124

県土整備部キャッチコピー

インフォメーション

HOME / インフォメーション / メンテナンス分野表彰制度 / インフラメンテナンス賞の発表

2023年2月15日 / 最終更新日時：2023年2月15日

メンテナンス分野表彰制度

インフラメンテナンス賞の発表

インフラメンテナンス プロジェクト賞

応募いただいたプロジェクトの中から、インフラメンテナンスにより特に地域のインフラの機能維持・向上に顕著な貢献をなし、地域社会の社会・経済・生活の改善に寄与したと認められるプロジェクトを選考し、以下の通り、「インフラメンテナンス プロジェクト賞」として表彰することとした。

①マタディ橋保全計画（送気システム導入）及びマタディ橋維持管理能力向上プロジェクト橋梁点検機材据付支援業務（橋梁検査車導入） （プロジェクト主体：(独)国際協力機構）

JICAはコンゴ民主共和国のコンゴ川を渡河するマタディ橋において、橋梁検査車の供与、ケーブル送気システムの導入及び維持管理の指導などを行い、マタディ橋の延命に関する技術支援を行った。



②東名高速道路 大和トンネル拡幅事業

（プロジェクト主体：中日本高速道路(株) 東京支社）

東名高速道路の渋滞緩和を目的に既設トンネルを拡幅する工事において、設計段階での工夫による既設断面への負担軽減や既設側壁撤去における施工検討での片側3車線確保により、供用中の路線への影響を最小限にし難易度の高い工事を完成。



③「ドライブレコーダー×AI」を活用した空港滑走路の調査及び点検 （プロジェクト主体：(株)南紀白浜エアポート）

滑走路における日常点検において、ドライブレコーダーの撮影をもとにした「AIによるき裂・損傷箇所の自動検知」を取り入れることで、損傷の見落としリスクを軽減させ、点検者によらない定量的な把握が可能となった。

④分岐器融雪ピット～降雪期における分岐器不転換防止対策～

（プロジェクト主体：北海道旅客鉄道(株) 鉄道事業本部 工務部 工事課）

積雪寒冷地における鉄道の安定輸送確保に向け「分岐器融雪ピット」を開発し、持ち込み雪や落下雪による不転換対策に長年取り組んできた。開発後も改良を重ね、北海道内の84箇所を設置されている。



⑤高速道路リニューアルプロジェクトにおける円滑な交通確保の取り組み

(プロジェクト主体：東日本高速道路(株) 北海道支社札幌管理事務所、関東支社京浜管理事務所、新潟支社長岡管理事務所)

高速道路の長期健全性確保に向けた大規模更新・修繕工事において、「ロードジッパシステム」によるシームレスな車線切替及び各地域の特性を考慮した交通規制の実施により、円滑かつ安全な交通確保を実現。



⑥稚内港北防波堤ドーム予防保全事業

(プロジェクト主体：国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部 稚内港湾事務所)

変状を鉄筋腐食リスクにリンクさせた5段階の劣化度で格付けし、エリア単位で評価した「劣化度マップ」を考案。床版部外面の補修工事を進め、歴史的価値のある稚内港北防波堤ドームの予防保全に取り組む。



インフラメンテナンス チャレンジ賞

応募いただいた取り組みの中から、点検・診断、設計、施工・マネジメント等の個別または組合せ技術を駆使し、特に地域のインフラメンテナンスに寄与したもの、あるいは、創意工夫によりインフラメンテナンスに対する管理者、市民等ステークホルダーの意識の向上が認められた取り組みを選考し、以下の通り、「インフラメンテナンス チャレンジ賞」として表彰することとした。

①トラック積載型システム作業床「フラップリフト®」開発プロジェクト

(取り組み主体者：(株)大林組)

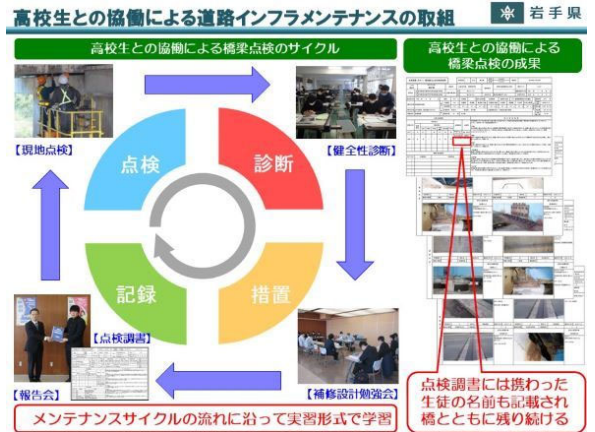
トンネル半断面の作業床を確保し、大型トラック荷台上で作業床を展開できるフラップリフトの開発により、道路トンネルのリニューアル工事での作業効率向上、交通規制期間の短縮を可能とした。



②高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組

(取り組み主体者：岩手県)

岩手県内の土木系学科の高校と連携し、実際に学生が道路橋点検を実施。その点検結果は岩手県の道路橋長寿命化修繕計画等の基礎資料として活かされており、高校生のインフラメンテナンスに関する興味・関心の向上や土木の魅力発信に繋がっている。



高校生との協働による道路インフラメンテナンスの取組①

○高校生に道路インフラメンテナンスの必要性や重要性の理解を深めてもらうとともに自ら実施した点検が県民の安全な暮らしを支えるという土木の魅力を感じてもらい将来のインフラメンテナンスを担う土木技術者の担い手の確保・育成を推進する。

高校生との協働による橋梁点検の実施状況

年度	対象高校		橋梁点検数
R1	①盛岡工業高校	土木科3年生 (9人)	3橋
R2	①盛岡工業高校	土木科3年生 (7人)	5橋
	②久慈工業高校	建設環境科2年生 (8人)	4橋
R3	①盛岡工業高校	土木科3年生 (8人)	4橋
	②久慈工業高校	建設環境科2年生 (7人)	4橋
	③黒沢尻工業高校	土木科3年生 (5人)	4橋
	④一関工業高校	土木科3年生 (7人)	4橋
R4	①盛岡工業高校	土木科3年生 (8人)	3橋
	②久慈工業高校	建設環境科2年生 (5人)	3橋
	③黒沢尻工業高校	土木科3年生 (8人)	3橋
	④一関工業高校	土木科3年生 (6人)	3橋
	⑤花巻農業高校	環境科学科3年生 (5人)	3橋

【現地点検】



【健全性診断】

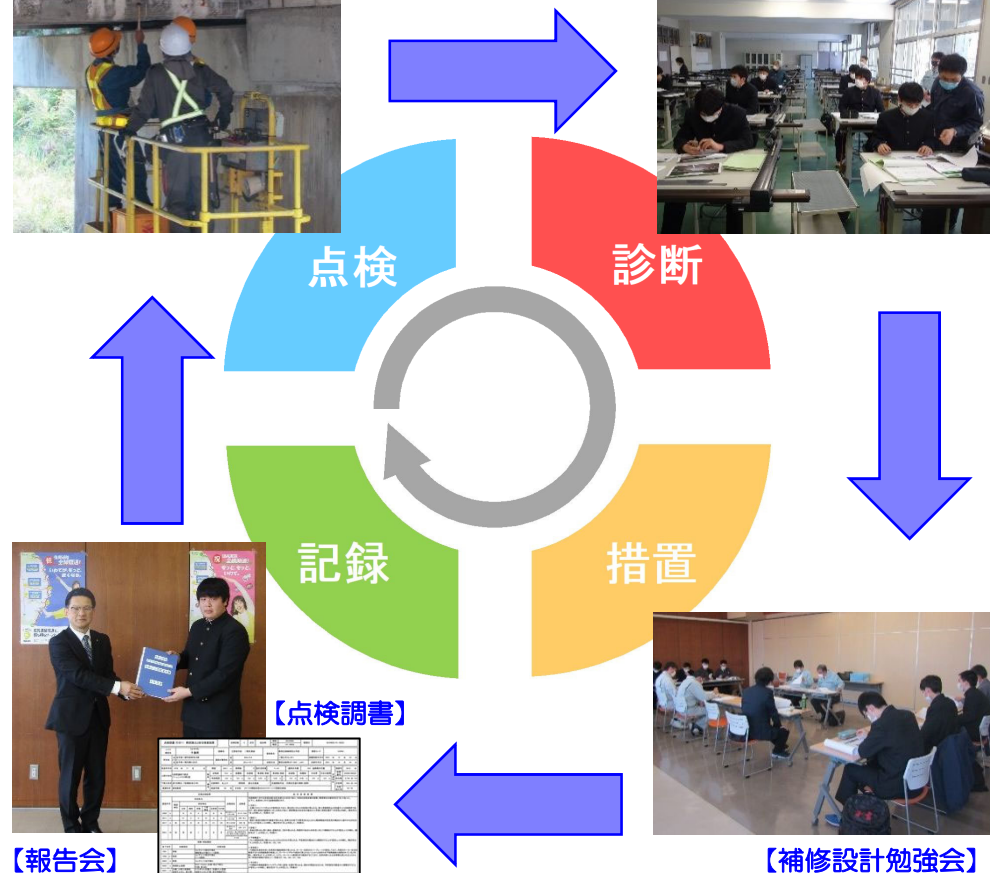


【報告会】

【点検調書】



【補修設計勉強会】



メンテナンスサイクルの流れに沿って橋梁のメンテナンスを実習形式で学習

【現地点検】

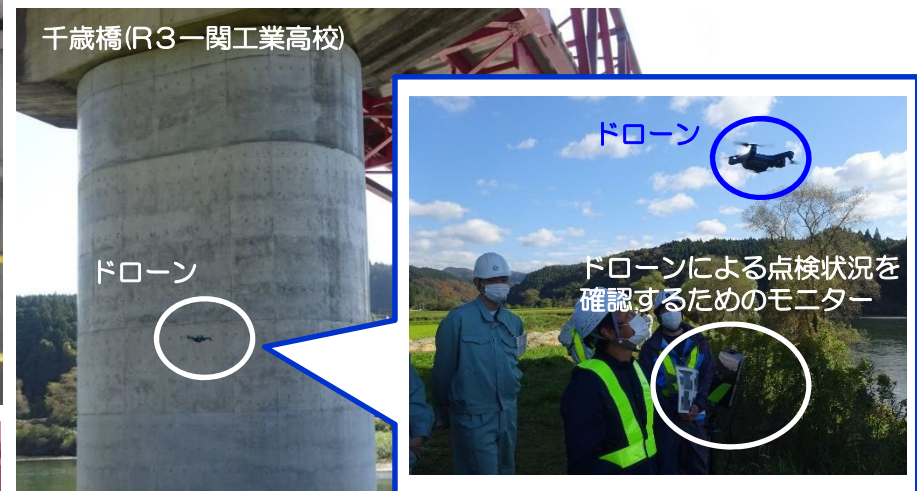
- 県等の指導を受け、岩手県道路橋定期点検要領に基づいて**高校生が現地で点検**を実施。
- 令和3年度からは、**高校生のインフラメンテナンスに関する興味・関心を高めるため**ドローンなどの**新技術を活用した橋梁点検**も実施。

現地点検の実施状況



新技術を活用した橋梁点検の実施状況

【ドローンを活用した点検状況】



【コンクリート構造物変状部検知システムを活用した点検状況】



【健全性診断】

○現地での点検結果を踏まえて、県等の指導を受け**高校生が点検橋梁の健全性を診断。**

【報告会】

○高校生との協働による橋梁点検の成果は**点検調書**として取りまとめ、**報告会で県に提出。**

○点検調書には**橋梁点検を実施した生徒の名前も記載**され、岩手県道路橋長寿命化修繕計画や補修設計等の基礎資料として活用。

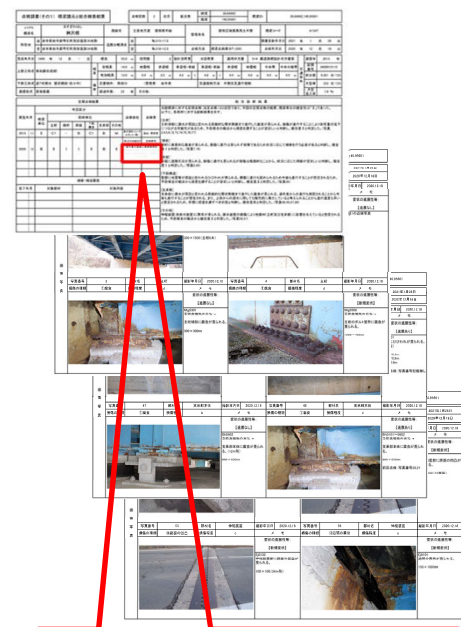
健全性診断の実施状況



報告会の実施状況



高校生との協働による橋梁点検の点検調書



高校生が点検結果を県に報告し成果を県政に活用

点検調書には点検を実施した生徒の名前も記載